

平成30年度犬山市公共交通の再編に向けた方向性

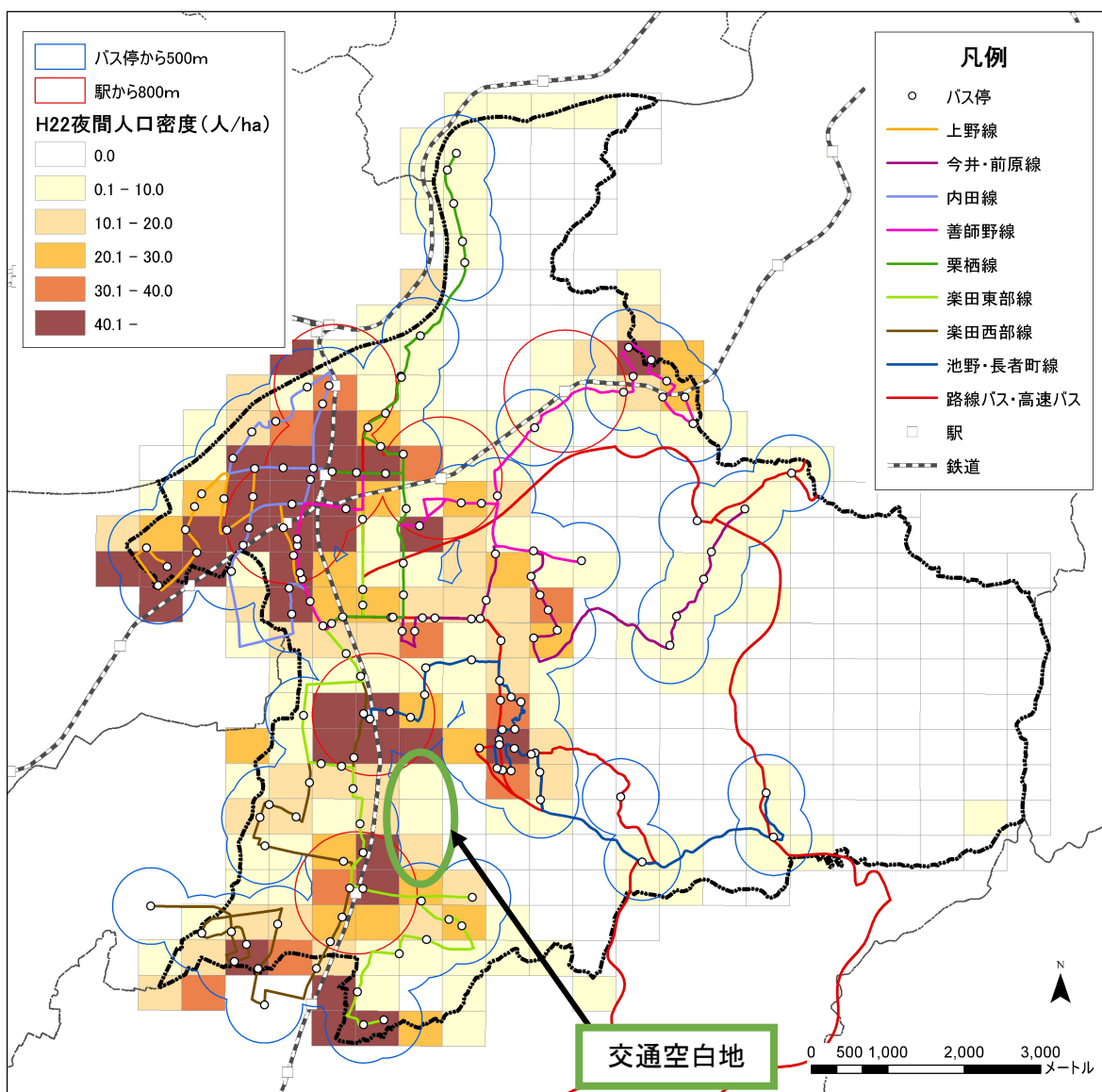
1. コミュニティバスの課題

①交通空白地・交通不便地域の減少

【 犬山市コミュニティバスの運行目的と交通空白地の現状 】

犬山市コミュニティバスは、「既存の公共交通機関が存在しない交通空白地に在住する高齢者や自ら交通手段を持たない交通弱者に対して、主要な公共施設や市街地などへ移動する手段を確保する。」ことを目的に運行している。

市内の交通空白地の現状は、市内の概ねの居住地は公共交通の徒歩圏域（駅から800m・バス停から500m）に含まれているものの、公共交通の徒歩圏域に含まれない居住地も存在する。

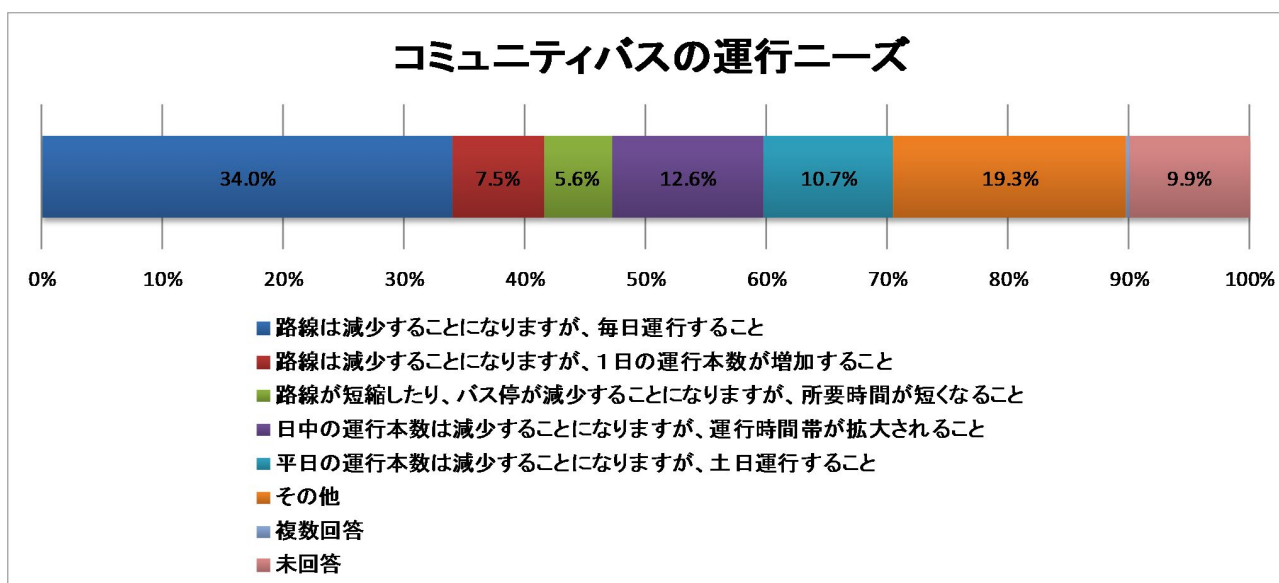


現存する交通空白地域の解消に向けた対策が課題
⇒交通空白地・交通不便地域の減少を図る路線再編

②毎日運行の実施

【 コミュニティバスの運行ニーズ（H28 町内会アンケート） 】

コミュニティバスの運行ニーズは、「路線は減少することになりますが、毎日利用すること」が最も多く、「毎日運行」を望む意見が多い。



コミュニティバスの毎日運行を求める意見への対応が課題
⇒コミュニティバスの毎日運行の実施

③運行本数の増便

【 犬山市都市計画マスタープランにおける将来都市構造図 】

犬山市都市計画マスタープランでは、「いつまでも暮らし続けたい都市」という目標のもと、公共交通を軸とした身近な生活拠点と生活圏の形成を目指しており、「地区拠点」、「準地区拠点」、「コミュニティ拠点」を形成するものとしている。

このまちづくりの実現を公共交通として支えるためには、地区拠点間を結ぶコミュニティバス基幹路線や各拠点間を結ぶコミュニティバス地区路線の運行が重要である。また、地区拠点間の相互連携をより強化するため、各路線の役割に応じた効率的な運行による運行本数の増便が必要である。

＜将来都市構造図＞いつまでも暮らし続けたい都市

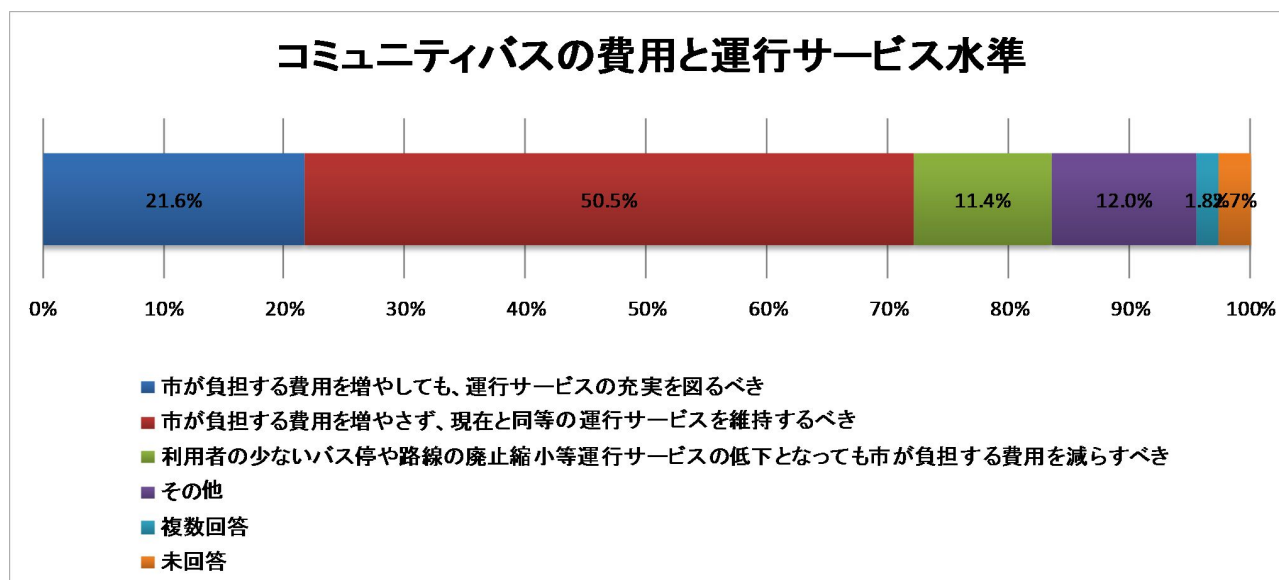


拠点間連携を強化するコミュニティバスの運行が重要
⇒各路線の役割に応じた効率的な運行による運行本数の増便

④運行負担金の現状維持

【 コミュニティバスの費用と運行サービス水準 (H28 町内会アンケート) 】

コミュニティバスの運行負担金と運行サービスの関係については、「市が負担する費用を増やさず、現在と同等の運行サービスを維持するべき」が最も多く、コミュニティバスの「運行負担金の現状維持」を望む意見が多い。



運行負担金の現状維持を求める意見への対応
⇒運行負担金を現状程度に抑えた路線再編の実施